

あの留学生は今 : Ms. Bettina Gnaegi/スイスからの交換留学生

横浜国大都会

佐々木 隆雄(日本製鋼所OB)

彼女(Bettinaと呼んでいました)は、2010年10月～2011年9月の1年間横浜国立大学(YNU)に交換留学生として在籍(2011年8月初めには帰国)していました。ベルン大学/スイス生物学(Biology)専攻、来日時にはすでに学部修了、1年YNUに在籍した後は修士課程に進学することになっていました。

「あの留学生は今」の企画に寄稿しようと思いつく浮かんだのは彼女でした。私は2008年4月に三井V-Netに登録、横浜国大都会に入会、最初の交流はドイツからの女子留学生で半年、続いてUKからの男子留学生1年、そしてイタリアからの男子留学生半年と経験を積んで彼女は4人目の交流パートナーでした。交流期間中東日本大震災があったこと、アウトドア活動では同時期在籍して横浜国大都会会員との交流を希望しなかったドイツからの2人の女子留学生も一緒に複数の留学生との交流を体験できたこと、彼女は伝統芸能にも関心があり、まず能を鑑賞したいとの希望でさっそく横須賀劇場で公演中の能舞台を見ましたが、歌舞伎、文楽に加えて能についても知識を深めていききっかけを与えてくれたこと等々新しい体験ができたせいも彼女との交流は思い出深いものでした。

2010年10月末に自己紹介を兼ね交流をどのように進めるかについて話し合いました。その10月29日には生物の多様性に関する条約参加国によるCOP10の会議が名古屋であり名古屋議定書が採択され条約の公正かつ強制力のある実施メカニズムが策定されていました。すでに人類存続のためには、地球規模での温暖化への対応と生物多様性の保全が重要であること常識となっていたこともあり、この最初の面談で確か「種、遺伝子、生態系」の三つについての継続性が伴う保存、利害調節、分配等の大切さを熱心に説明してくれた彼女の顔が環境保護について考えるとき、また他の人と話すときに浮かんでくることも彼女に原稿を依頼したもう一つの理由と言えそうです。

彼女は、1年の留学生生活を終えいったん帰国、学業を全うし再来日し、色々な経験をしました。今は故郷スイス/ベルンに戻り就職、仕事にはやりがいを感じているようです。彼女の日本での思い出話一読いただけたら幸いです。

和訳は私がしました。和訳に当たっては、複数ある相応単語からの選択、文章内でのキーワードの位置は私の感覚で決めました。彼女の考えているニュアンスとの違いが少ないことを願うばかりです。

以上



2010年11月 逗子海岸流鏝馬見学



2013年6月スイス/ベルンにて